

中島 淑子 (Yoshiko NAKASHIMA)

教授 (教職課程研究センター長)

学位: 修士(教育)

略歴: 名古屋大学 教育発達科学研究科 博士過程 前期課程 修了

専門分野: 教育方法学

研究課題: 算数科の量の学習における概念的な理解と操作活動
自主的な研究サークルにおける教師の学び

【著書】

・「小学校『長さの学習』における概念的な理解と操作活動」(2013), 「授業研究と授業の創造」, 的場正美・柴田好章編著, 溪水社

【論文】

- ・「子どもの思考を反映した教授介入: 割合の概念的理解の保持について」(2015), 共同研究(栗山和広氏・吉田甫氏), 日本教育心理学会総会発表論文集 (57)
- ・「子どもの論理を反映した教授介入: 割合の認知的障害に及ぼす効果」(2014), 共同研究(栗山和広氏・吉田甫氏), 日本教育心理学会総会発表論文集 (56)
- ・「子どもの発言に内在する授業諸要因の抽出に関する事例研究」(2014), 共同研究, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科(教育科学)(59-1)
- ・「長さ, かさ, 広さの任意単位による測定を通して拡張される概念」(2010), 日本数学教育学会, 第43回数学教育論文発表会論文集(2)
- ・「小学校低学年「長さ」における操作活動と概念の拡張」(2009), 教育方法学研究 (35)

【発表】

- ・「Enhancing Lesson Study and Developing Teaching Materials focusing on students learning」(モンゴル授業研究会。於・モンゴル国立教育大学: ウランバートル, 2017年)
- ・「算数教育における量学習の変遷」(日本教育方法学会第53回大会、於・千葉大学, 2017年)
- ・「小学校算数教育における分離量と連続量の統一的指導原理の構築—量の動態的認識に基づいて—」(2016), 日本教育方法学会 第52回大会(九州大学)
- ・「日本の教師たちが学ぶ自主的な研究サークルについて」(2016), 世界授業研究学会(WALS)イギリス大会(エクセター大学)
- ・「子どもの思考を反映した教授介入: 割合の概念的理解の保持について」(2015), 共同研究(栗山和広氏・吉田甫氏), 日本教育心理学会総会発表論文集 (57)
- ・「子どもの論理を反映した教授介入: 割合の認知的障害に及ぼす効果」(2014), 共同研究(栗山和広氏・吉田甫氏), 日本教育心理学会総会発表論文集 (56)
- ・「自主的な研究サークルにおける日本の教師たちの学び」(2014), 世界授業研究学会(WALS)インドネシア大会(インドネシア教育大学)
- ・「長さの測定学習における手続き的な知識と共に形成される概念的な理解」(2013), 世界授業研究学会(WALS)スウェーデン大会(ヨーテボリ大学)
- ・「『量の測定』における操作活動と概念の拡張」(2012), 世界授業研究学会(WALS)シンガポール大会

【その他】

・教師の研究サークル「授業で育つ教師の会」事務局長

【研究テーマ】

小学校算数科では、長さ、面積、体積、時間、重さ、角の大きさ、速さなどの量の学習が行われていますが、ものさしの目盛りの左端を、0ではなく1として1cm長い測定値とする誤答、2時45分を3時45分と読む誤答、180度以上の角度 α 度を $(360-\alpha)$ 度とする誤答があります。

これらの誤答は、手続き的な知識の不足が原因とされがちですが、量は始点から連続的に増加することが理解されていないことによると考えられます。そこで、誤答に対して、量を連続的に増加させる構成的な操作活動が有効性を実証することが研究テーマです。

また日本では、教師は、自主的な研究サークルに属して日々研鑽を重ねています。自主的な研究サークルにおいて、どのようにして、教師が教職の専門性を高めてきたかを明らかにすることを研究しています。